

# 集落構成の変遷にみるサステイナブルコミュニティの理想

# 第1章 序章 背景・目的

都市はこれまで、**成長と拡大を前提**とした計画がなされ、急速な都市化が進行してきた。しかし、無秩序な市街地の拡大による環境の悪化など、これまでの都市計画の限界が課題として顕在化してきており、持続可能な社会、すなわち**サステナブルコミュニティへの転換**が求められている。

そこで本研究では、その地理条件により周辺の影響を受けず、**固有の資源や暮らし方や文化**等により諸問題を**独自に抑制・解決**してきたと考えられる離島地域を対象に、集落構成を分析することで持続可能な地域づくりに関する知見を得ることを目的とする。

近代都市論から読み取る空間的特徴、及び原則

対象離島  
について

年代	1970年代	1990年代	2000年代
----	--------	--------	--------

姫島

備島

御蔵島

瑠島

地盤新島

集落の変遷からみる集落の形態特性評価

総括

## 第2章 近代都市論から読み取る空間的特徴、及び原則 概要

本研究では、計27の都市論を研究対象とした。それらは、1857年から1991年の期間において提唱されている。

年代	提唱	提唱者
1857-1811	ウィンの都市改造	フランツ・ヨゼフ1世
1898	都市計画の美的原理について	カミロ・シット
1898	工業都市	トニ・ガルニエ
1898	田園都市	エベネザ・ハワード
1916	ゲデスの都市航空	ハトリック・ゲデス
1922	コルビュシエの明日の都市	ル・コルビュシエ
1922	360万人の現代都市	ル・コルビュシエ
1923	グレアンの人都市の出来	エリッテ・グレアン
1923	コムの地域計画論	アサ・コム
1928	ラバンスシステム	ヘンリ・ライト、クラレンス・ヘリ
1928	近隣地区論	クラレンス・ヘリ
1928	レ・ジュ・チインの無人橋状都市	NAレ・ジュ・チイン
1933	La Charta D'Atenes (95条のアテネ憲章)	CIAM
1933	コルビュシエの輝く都市	ル・コルビュシエ
1933	ベル・ウォルフの貯蓄都市	ベル・ウォルフ
1942	MARSの計画	MARSグループ
1948	第1回国際セミナー (都市の再開発)	
1949	都市のイマジ	ケヴィン・リンチ
1951	アメリカ人都市の視と生	ジェイン・ジェコブス
1978	インセンティブ・ゾーニング	ニュー・ヨーク
1982	ソリアの橋状都市	アチロ・ソリア
1988	フリッチの未来都市	オッド・フリッチ
1991	アワニ原則	ヒケル・カルソフ、マイケル・コルベット、アンドレス・ドゥアニ、エリザベス・クラタ、サイバク、スチファニス・ホリソイデス、エリザベス・セル
	バジェットの同心円モデル	バジェット
	ライトの扇形モデル	ライト
1944	ハリスとウルマンの多核モデル	ハリス、ウルマン
1968	キプルの計画案	ルイス・キプル

## 第2章 近代都市論から読み取る空間的特徴、及び原則

概要

対象とした都市論について、「年代」、「提唱」、「提唱者」、「空間的特徴、及び原則」、「説明」という項目のもと整理した。

「空間的特徴、及び原則」とは、その都市論が都市のこういった部分に着目しているのかについての項目である。

年代	提唱	提唱者	空間的特徴、及び原則			説明
			キーワード	解釈		
1828	近隣仲区論	クラレンス・ヘリ	オープン・スペース	オープン・スペース		小公園とレクリエーション・スペースの体系があること
			規模	規模	人口規模	小中学校が1校必要な人口に対応すること
			地域の府領			バスする人口に応じた商店街地区を1ヶ所またはそれ以上つくり、仲区の周辺、できれば交通の接点がある近隣仲区の間近に配置すること
			境界	境界		幹線道路で周りに取り囲まれていること
			地区内交通体系	交通	歩行圏	仲区内には特別な交通体系を設ける。各幹線道路は、予知発生交通量に見合っつけられ、仲区内は循環交通を促進し、通過交通を防ぐように全体として設計すること
			公共施設用地	ゾーニング	土地利用	学校その他の公共施設用地は、仲区の間近に公共広場の周りに集められていること

## 第2章 近代都市論から読み取る空間的特徴、及び原則

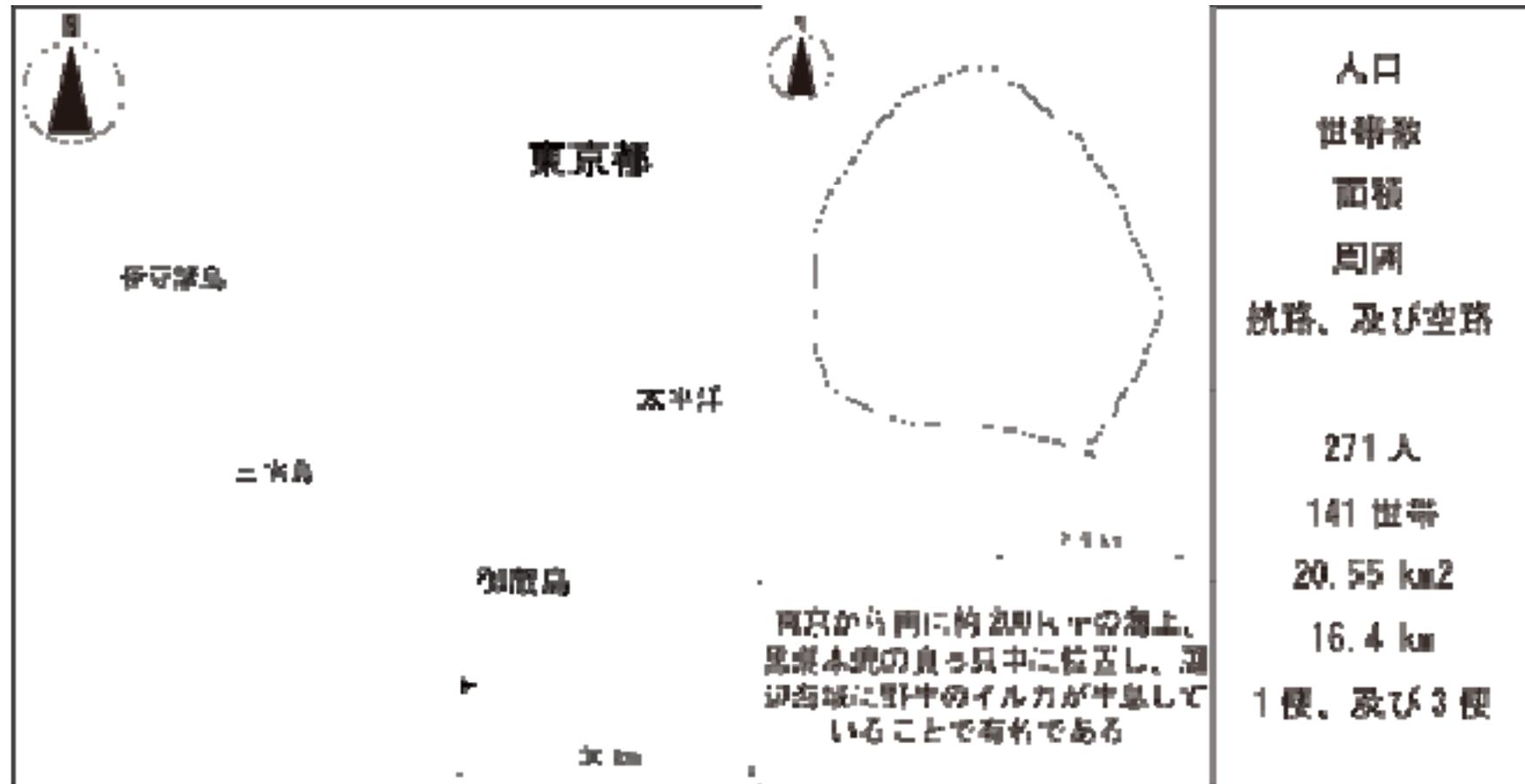
### 空間的特徴、及び原則の傾向把握

空間的特徴、及び原則	件数	内容
交通	25件 (18.2%)	交通は東南地区を軸として発達し、基本的な交通管理網は、環状と放射状の道路によって構成される。
ゾーニング	25件 (18.2%)	市街地は放射型に構成され、中心部には地域の中心的な施設が位置されなければならない。また、主要な施設は拡張も考えられるべきである。
マネジメント	18件 (13.1%)	土地は公有化すべきである。建物自体の悪化や機能の低下等には、その区域に対して何らかの行政的な調整を行うべきである。
規模	13件 (9.5%)	各都市圏を提唱する上で、それに基いた人口規模や都市規模、もしくは密度を想定しなければならない。
境界	12件 (8.8%)	都市は幹線道路で周回を取り囲まれ、自然条件によって決定されるグリーンベルト等で他の地域との境界線を保持することが重要である。
オフィススペース	8件 (5.8%)	誰もが利用することができ、ある一定の大きさをもつ。また、それらは自由時間を有効利用できるものであり、できる限り増やしていくべきである。
都市自足性	8件 (5.8%)	働く場は、そこで消費する人々が、喜んで働けるような場が生み出されるべきである。もしもこれらの機能が低下してきた場合は、行政が支援することで回復を図るべきである。

上位三項目である「交通」、「ゾーニング」、「マネジメント」の合計は全体の約半数（49.5%）を占めていることから、近代の都市や地域を読み解く上で、これらの空間的特徴、及び原則は重要であることがわかる。

# 第3章 対象離島について

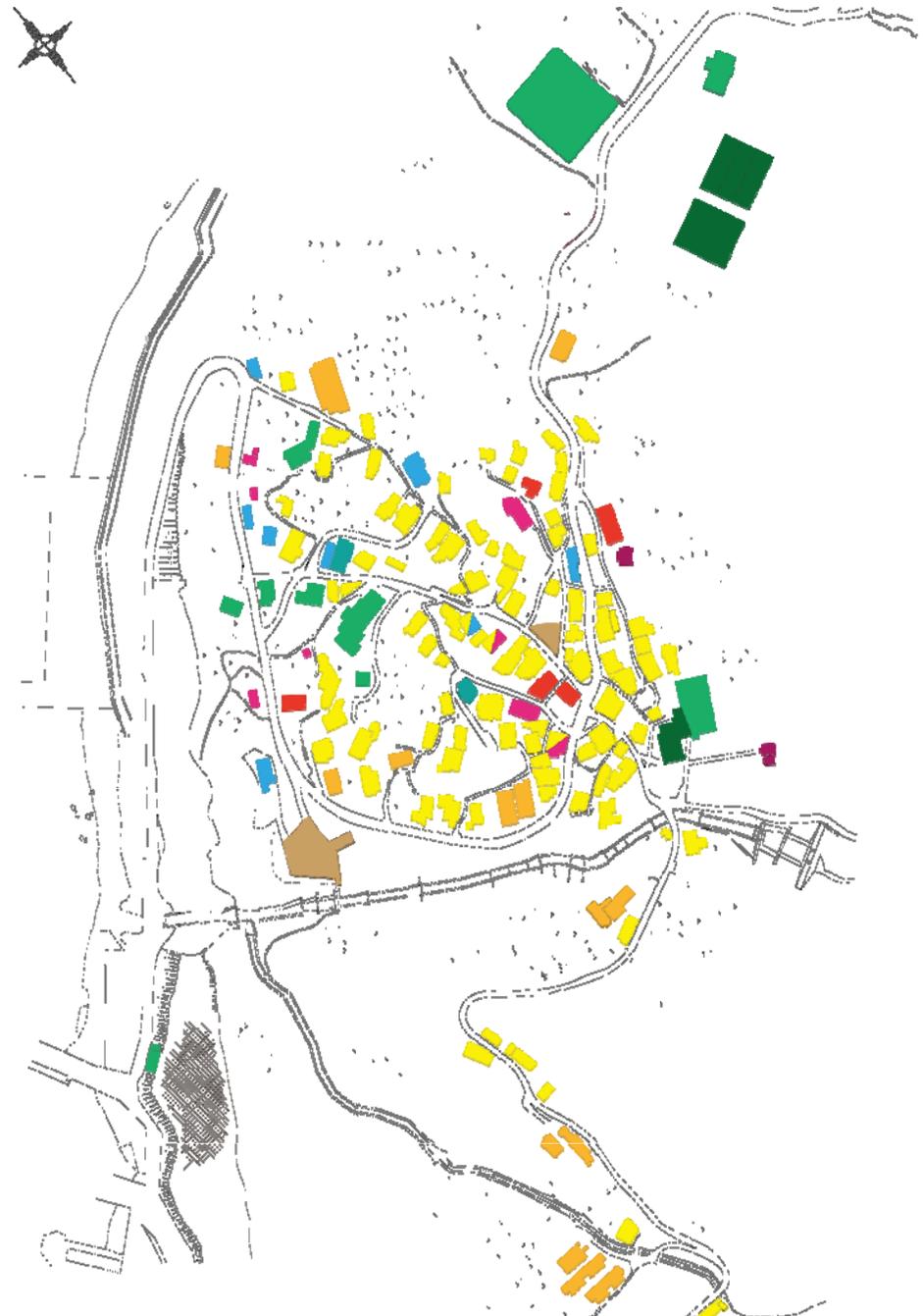
大分県姫島村  
 広島県呉市情島  
 東京都御蔵島村  
 長崎県小値賀町斑島  
 大分県津久見市地無垢島



## 第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

- ①過去の集落構成を把握する材料として、住宅地図・航空写真・ヒアリングを利用する。
- ②期間は【1970年代-1990年代-2000年以降】という三つの年代を設定し、資料を収集した。
- ③集落構成を把握する手段として、都市論で得られた空間的特徴、及び原則が8件以上当てはまったものについて把握を行う。ただし、「マネジメント」「規模」「都市自足性」については、集落構成の変遷からは読み解くことができないので考察対象としない。

# 第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

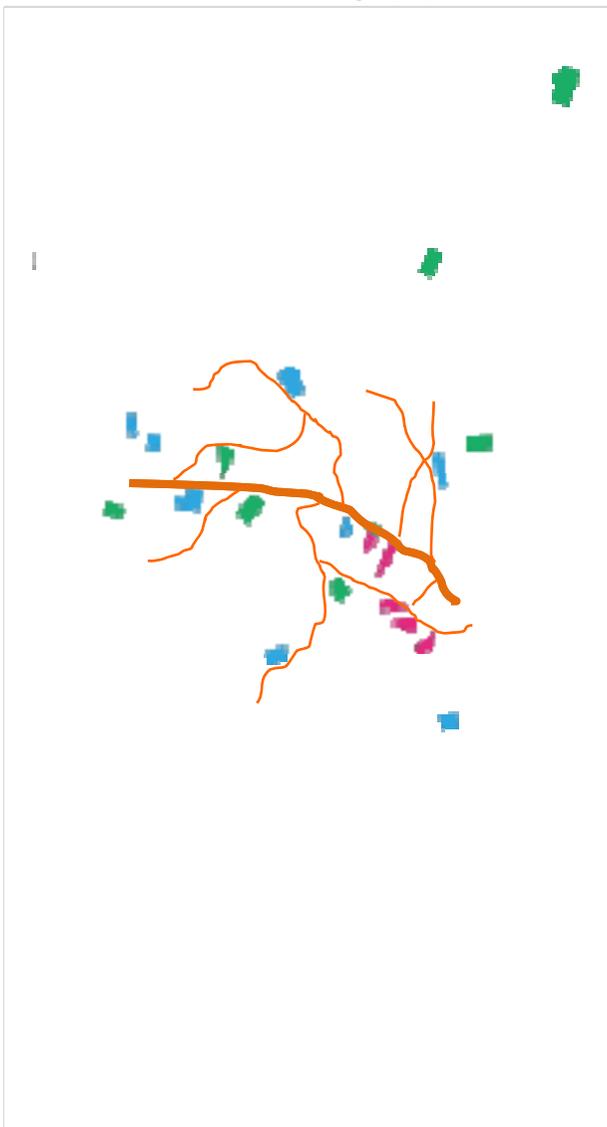


## 【凡例】

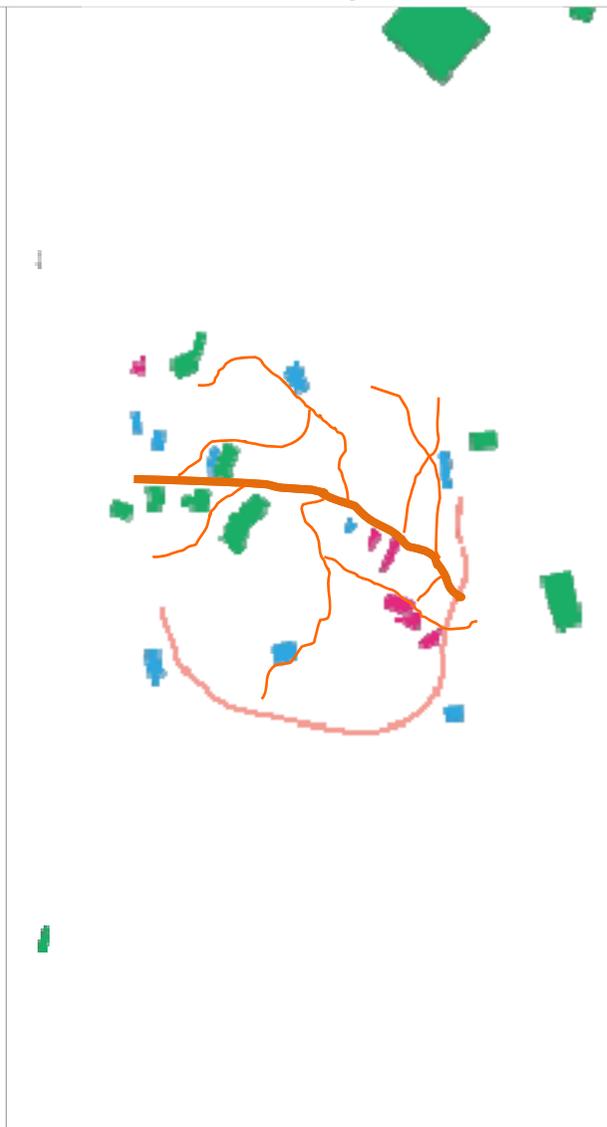
住居施設	戸建住宅	
	集合住宅	
三次産業施設	物販関連施設	
	宿泊施設	
	サービス施設	
一・二次産業施設	養殖・製造業関連施設	
公共施設	協会・組合関連施設	
	公共施設	
	教育施設	
	公民館	
その他	公園	
	信仰対象物	

第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

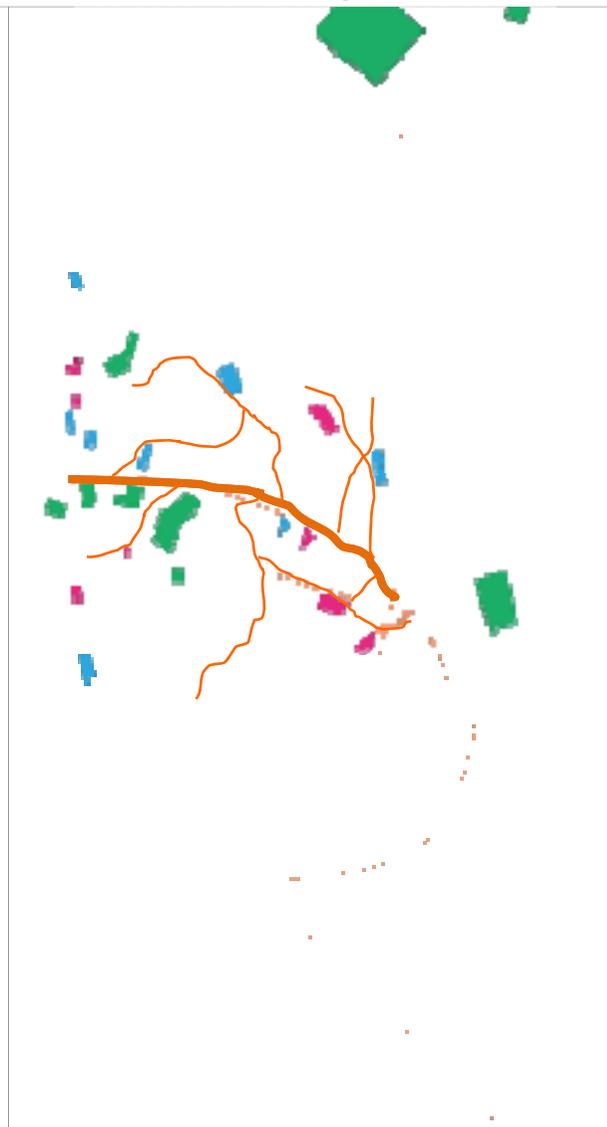
1970年代



1990年代



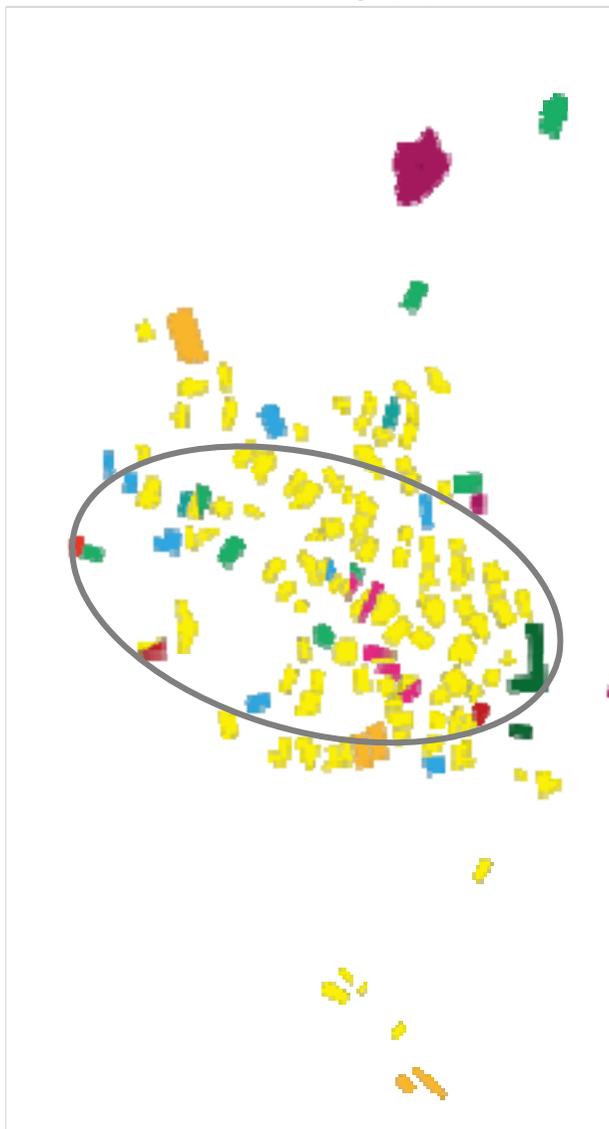
2000年代



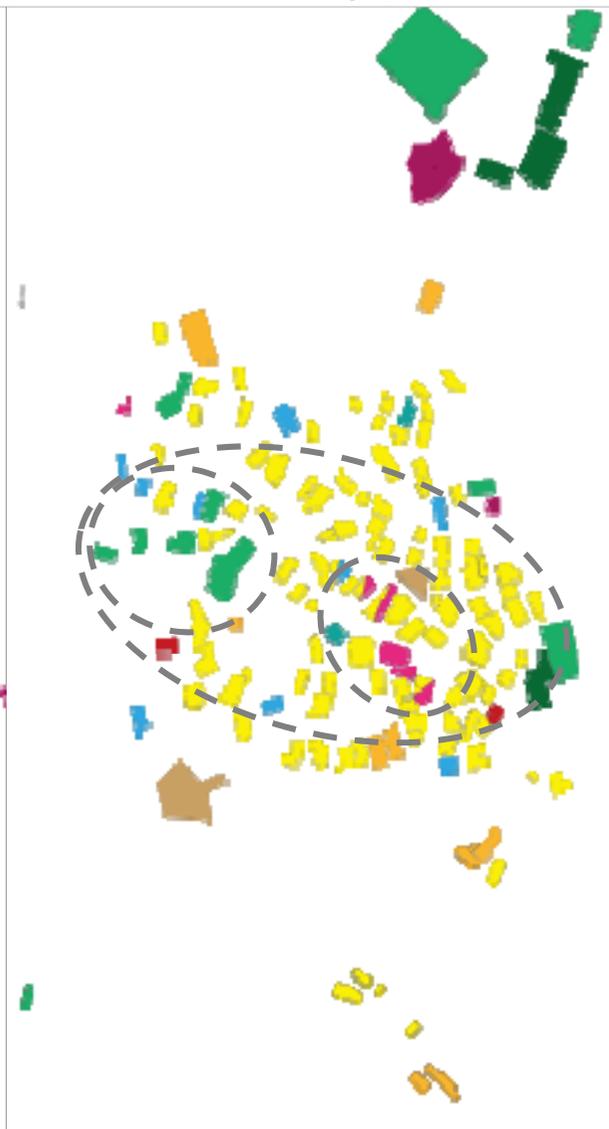
空間的特徴、及び原則	変遷からみた集落構成の特徴
<p>(交通)                      基本的な交通循環網は、<b>環状と放射状の道路</b>によって構成される。住区内においては<b>特別な街路体系</b>を布くことで歩車分離を図る。</p>	<p>基本的な交通網は、70年代においては放射状にのみ広がっていたが、90年代に道路が整備されることで<b>放射状、及び環状の道路網へと成長</b>していったことがわかる。また、中央の道から放射状に伸びた街路は、そのほとんどが<b>幅員の狭い道路として網目状に分布</b>し、歩行者のみが通れる道路となっていることから、<b>歩車分離が行われている</b>ことがわかる。</p>

第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

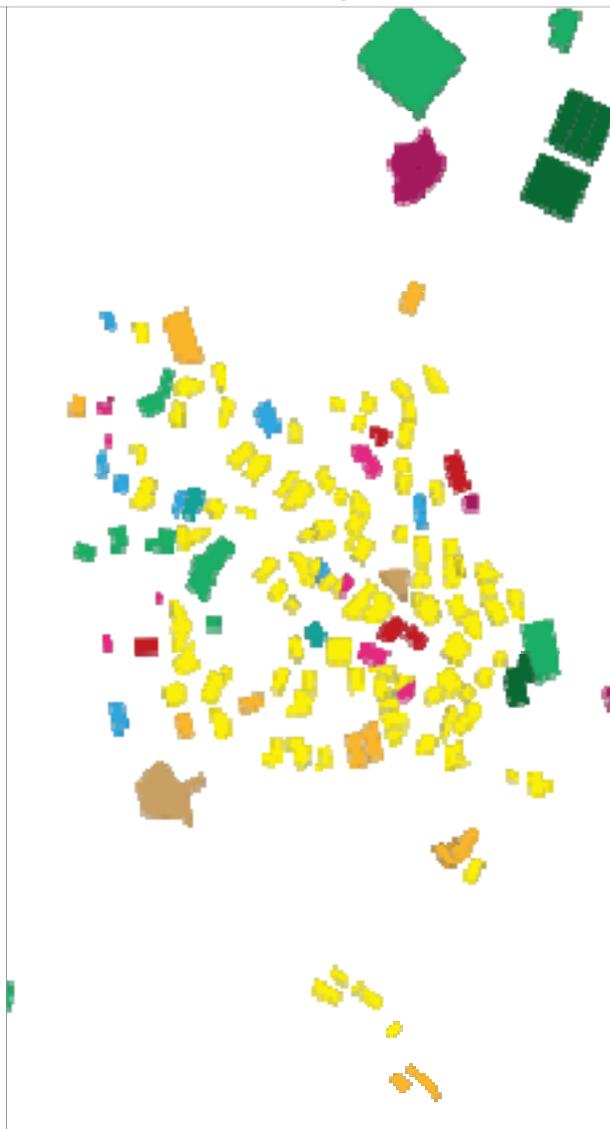
1970年代



1990年代



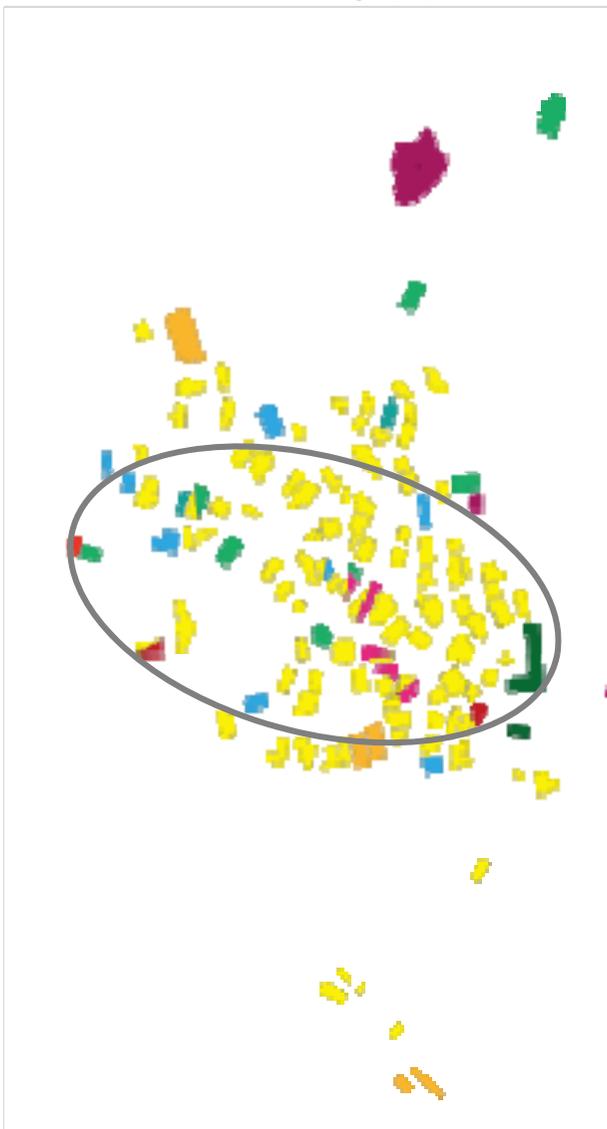
2000年代



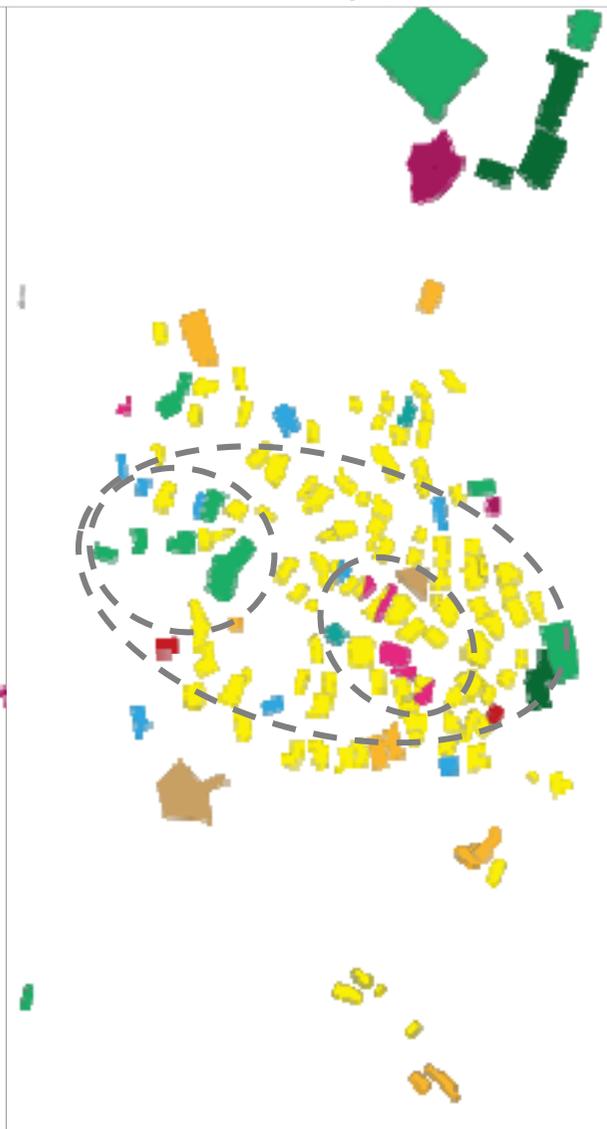
空間的特徴、及び原則	変遷からみた集落構成の特徴
<p>(ゾーニング) 市街地は放射型に構成され、中心部には地域の中心施設が位置されなければならない。</p>	<p>市街地は、中央の道を中心として放射状に広がっているといえる。中心部の構成をみてみると、70年代では住民が日常的に使用するだろう郵便局や駐在所といった公共施設、及び商店といった物販関連施設が配置されていることがわかる。この構成は年を重ねるごとに強くなっていく傾向があり、90年代には診療所・駐在所・老人福祉会館が新たに建設、または移設されている。</p>

第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

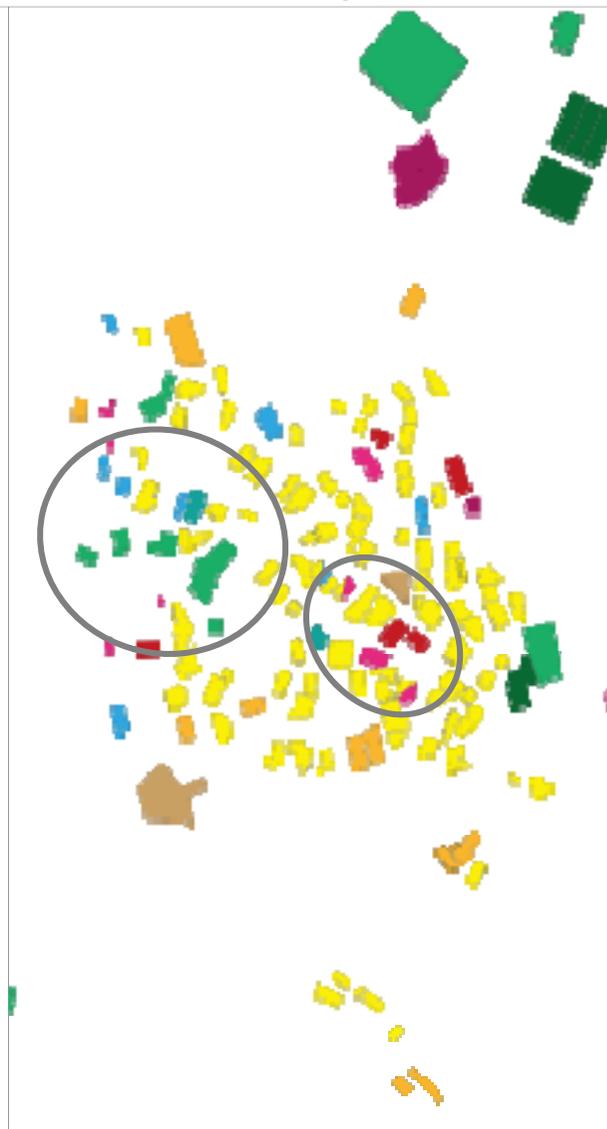
1970年代



1990年代



2000年代



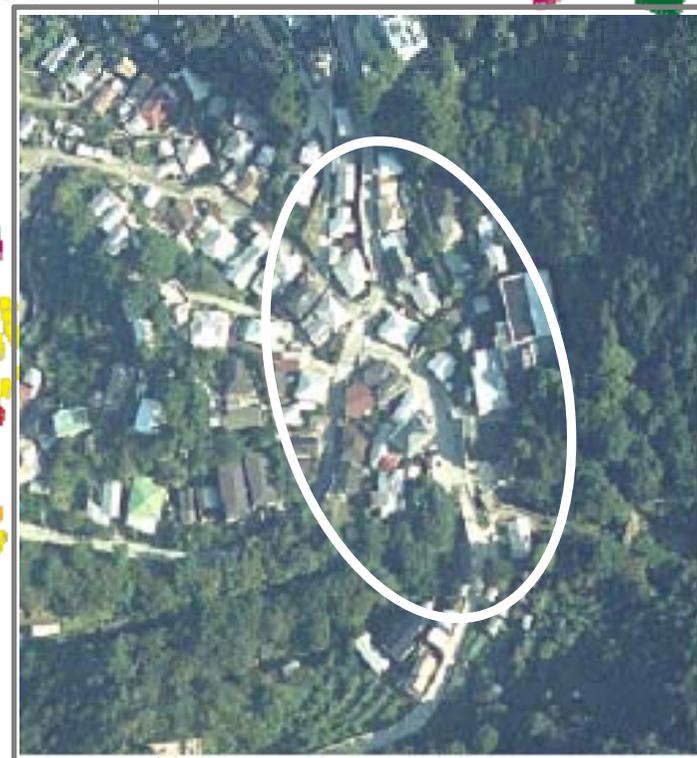
空間的特徴、及び原則	変遷からみた集落構成の特徴
<p>(ゾーニング) 市街地は放射型に構成され、中心部には地域の中心施設が位置されなければならない。</p>	<p>しかし一方で、それらが局部に集中していく傾向があることも伺える。00年代の地図を元に配置をみると、海岸線側に公共施設が集中しており、山裾側では三次産業施設が集中していることがわかる。</p>

第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

1970年代

1990年代

2000年代



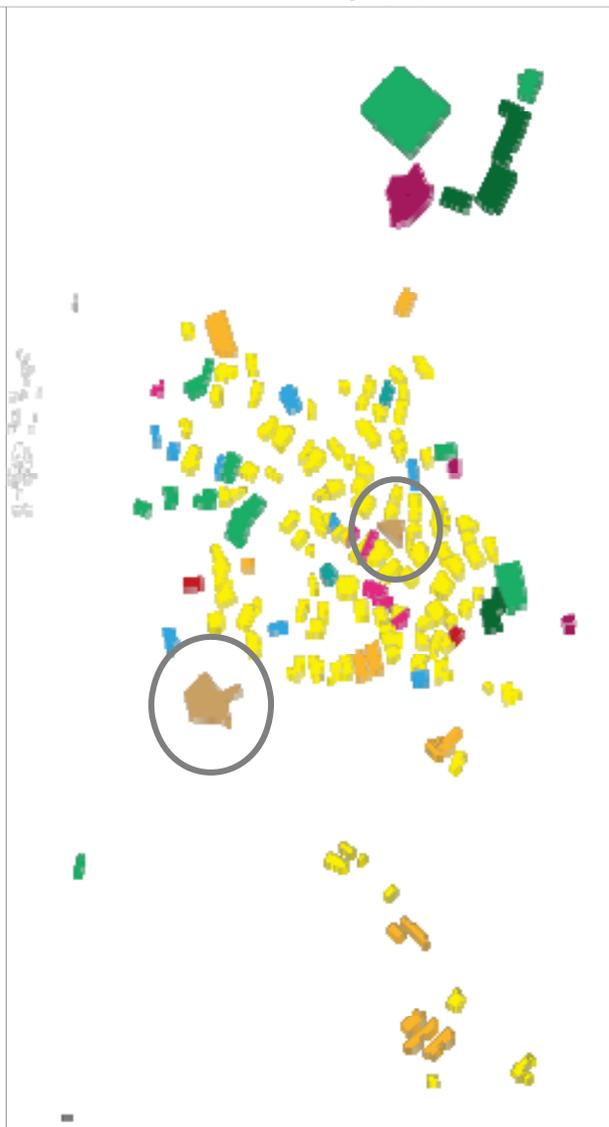
空間的特徴、及び原則	変遷からみた集落構成の特徴
<p>(境界) 都市は幹線道路で周囲を取り囲まれ、自然条件によって決定されるグリーンベルト等で他の地域との境界線を保持することが重要である。</p>	<p>離島という地理的条件から周囲は海に囲まれており、他の地域との境界線は明確に保持されているといえる。また、70年代にはまだ海岸線沿いの道しか整備されていないが、90年にかけて集落西回りの道路が整備されるとともに、山裾側の道も幅員が拡幅されていることがわかる。そうすることで、海岸線沿いの道から役場へと繋がる一つながりの道ができ、それは集落を覆うように構成されている。</p>

第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

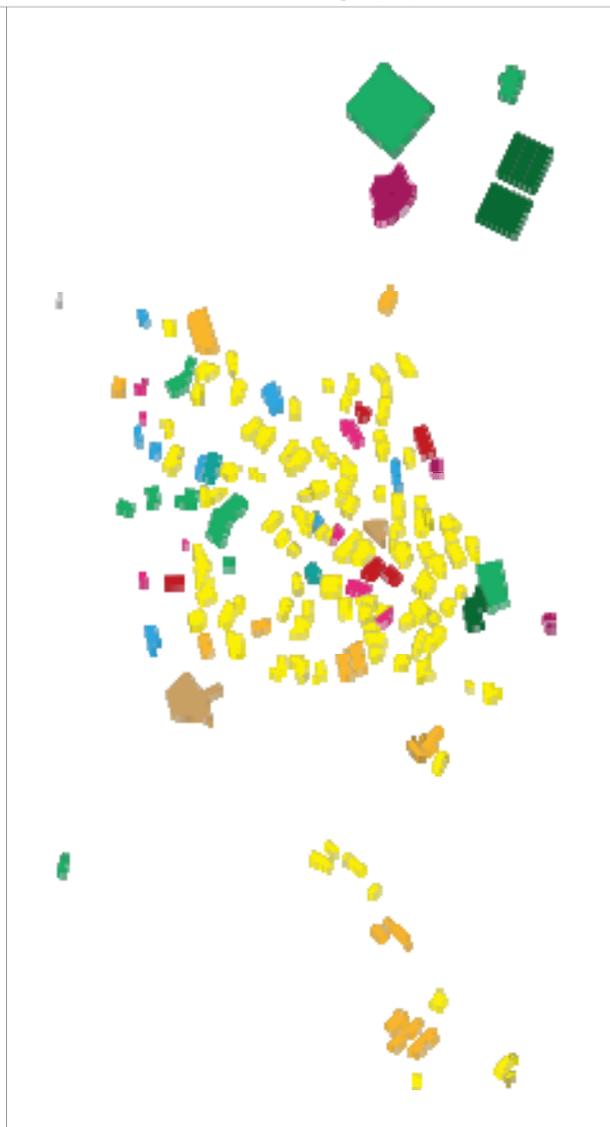
1970年代



1990年代



2000年代



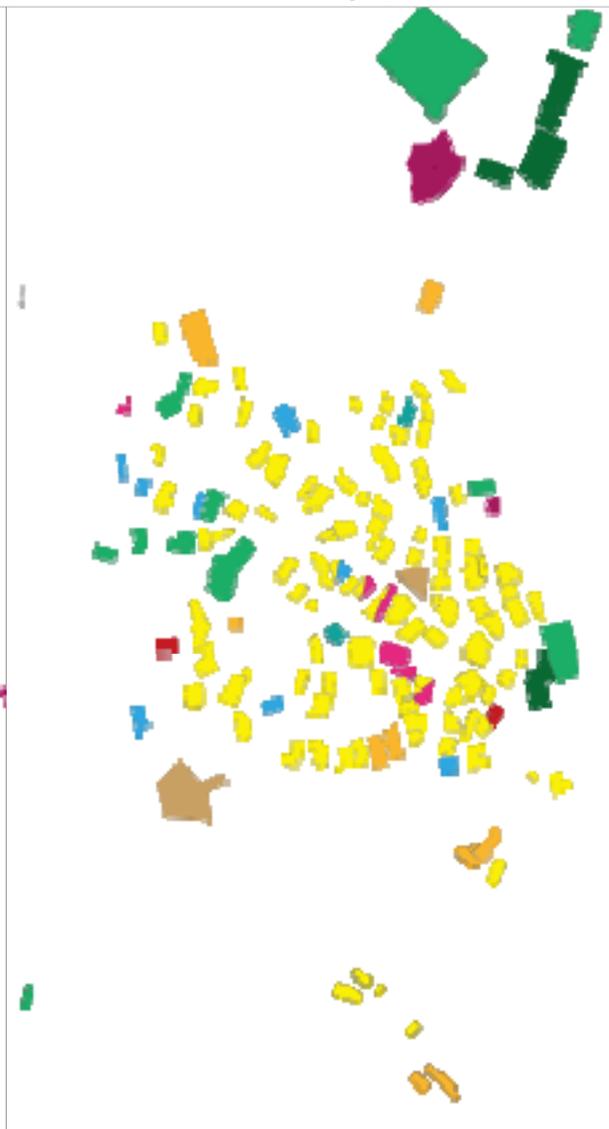
空間的特徴、及び原則	変遷からみた集落構成の特徴
<p>(オープン・スペース) 誰もが利用することができ、ある一定の大きさをもつ、また、それらは自由時間を有効利用できるものであり、できる限り増やしていくべきである。</p>	<p>70年代にはオープン・スペースとなる空間は確認できなかったが、90年代にかけて <b>集落外縁部にふれあい広場、集落内部に児童公園</b>が整備される。</p>

第4章 集落の変遷からみる形態特性評価

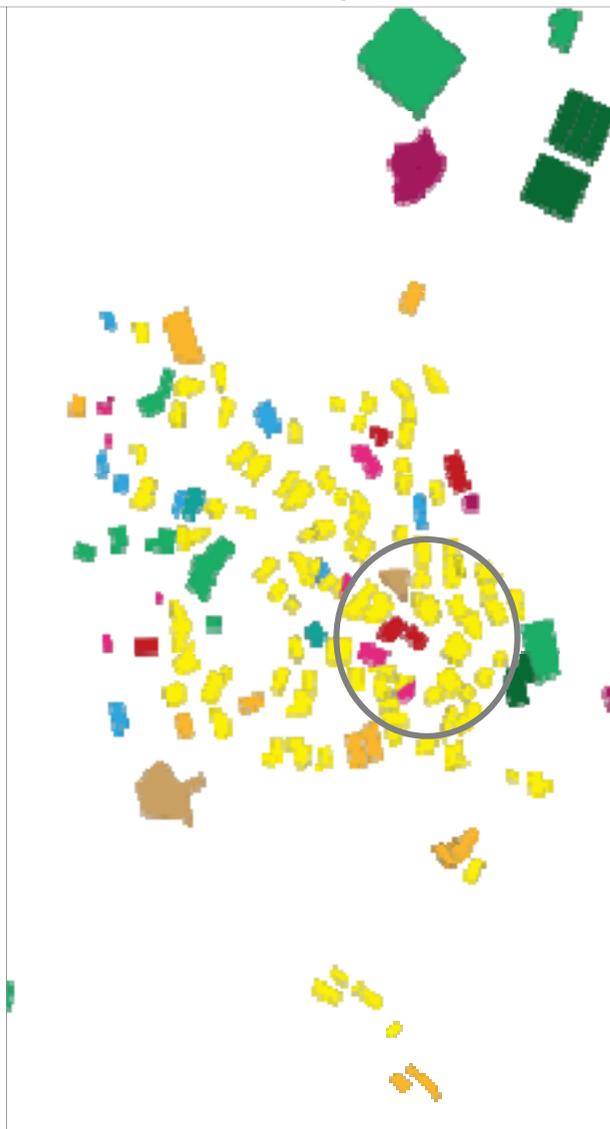
1970年代



1990年代



2000年代



空間的特徴、及び原則	変遷からみた集落構成の特徴
<p>(オープン・スペース) 誰もが利用することができ、ある一定の大きさをもつ、また、それらは自由時間を有効利用できるものであり、できる限り増やしていくべきである。</p>	<p>オープン・スペースを整備する意義として、自由時間の充実が挙げられるが、御蔵島の人々が何かあるときに集まる場所が、集落山裾側、西回りの道路と、集落中心部の道路が交わる「辻」部分である。この「辻」部分はオープン・スペースとして整備されたものではないが、住民の日常にとって大切な場となっている。</p>

## 第5章 総括

以上から、近代都市論を元に対象離島の集落構成について把握した。しかし一方で、都市論から抽出された空間的特徴、及び原則では説明できない集落構成もみられた。

それは、“道と道とが重なる「辻」空間がオープン・スペースとして利用される空間であること”、“集落の山裾側に配置される傾向がある等、集落構成に少なからず影響を与えていたと考えられる信仰対象物を評価する空間的特徴、及び原則が存在しないこと”である。これらの特徴は、御蔵島だけではなく他の対象離島においても確認することができた。

今回使用した都市論は海外の都市を元に行っていることから、その都市論において説明することのできないこれらの特徴は、日本独自の集落構成を把握する上で重要であると考えられる。